

令和7年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告 総括表

	センター名		活動目標・取り組みのポイント・アピールしたい点
中央区	弁天	計画	地域訪問を重ね、地域団体・関係機関等の信頼関係やネットワークを深める。身寄りがない、高齢者夫婦、地域や社会との繋がりがない世帯等の把握や支援を継続する。社会的孤立・孤立死・情報格差の減少を目指す。高齢者以外の関係機関ともネットワークを構築し、終活、障害、経済困窮等の施策周知や啓発に努める。
		実績	地域住民向け、専門職向けにおひとりさま支援等のセミナーや勉強会を開催した。重点地域では自立促進ケア会議を通じ、多職種と地域課題を共有した。福祉イベントでは相談機関の紹介、地域住民と医療・介護事業所とネットワーク作りに取り組んだ。空き家や資金計画セミナーなど、高齢者層以外も対象とした幅広い普及啓発活動を展開することができた。
	中央	計画	これまでのセンター運営で漠然と把握していた課題について会議や調査等を通じて明確化し、地域の関係機関と連携しながら具体的な解決方法について検討する。特に圏域西側エリアのサービス事業所が利用できる駐車場や駐輪場が無い問題について、それが原因でサービス提供を断られている実態等も含めて調査し、具体的な解決方法について検討していく。
		実績	地域ケア会議等の場を活用し、地域課題について地域住民や関係機関と話し合うことができた。地区部会活動支援やコミュニティカフェの運営を通じて、より細やかに地域ニーズを把握することができた。新たな介護予防サークルの立ち上げや、地域活動支援から出張相談に繋がる等、地域との関係を深めることができた。
	千葉寺	計画	高齢者の健康寿命の延伸、尊厳ある生活の実現に向け、関係機関と連携してセルフケアマネジメントの推進を目指す。また、孤立させない地域づくりのために、センターの機能周知を積極的に行い、地域の様々な方々が相談しやすいセンター運営に努める。
		実績	関係機関との密な連携で困難事例の早期介入や地域課題の集約を目指した。制度周知やICT活用で業務効率化も推進した。今後は相談対応と並行し、セルフケアマネジメントの推進、介護予防マネジメントの検証体制強化に取り組み、自立支援の更なる質の向上と地域福祉の充実に努めていく。
	松ケ丘	計画	孤立・孤独に対する取り組み、地域の特徴（特に地形）によって生じる生活のしづらさの改善に取り組むことで、住み慣れた地域での暮らしの継続が図れるよう様々な支援を行っていく。問題が複雑化・深刻化する前に、相談に結びつくよう、多世代に向けあんしんケアセンターを周知する。
		実績	アンケートでの状況把握や自立促進ケア会議での検討を行った。積極的に地域の集いの場や催しに出向き、あんしんケアセンターの周知や権利擁護、介護予防等の普及啓発に務めた。多世代への周知や普及啓発を今後も継続して行っていく。
	浜野	計画	〔活動目標〕地域の活性化。〔ポイント〕圏域内全小学校を会場に、SDGsイベントを実施してきた。今後も多世代に共通する地域課題解決に向けた活動を継続していく。〔アピール点〕SDGsイベントや徘徊模擬訓練等を通して多機関と連携体制が構築できており、一緒に地域課題に取り組める環境がある。
		実績	令和7年7月12日生浜東小学校体育館を会場に開催した「はまフェス2025～みんなの安心まちフェスタ～」には、125名の参加があった。協力いただいている事業所を知ってもらうためのポスター展示など、多世代に向けた周知活動につながった。3ヵ年計画の1年目であるため、更にブラッシュアップし来年度につなげていく。
花見川区	こてはし台	計画	圏域内の支援者や家族介護者などに向けた支援体制を充実させ、必要とする情報や支援を提供する。また、介護や支援に関する知識等を深めるための学びの場を設け、支援者同士の交流や学び合いの機会を増やすことで、地域全体の支援力を高めることを目指す。
		実績	初の試みとして介護者（主に認知症の方を介護している方向け）を対象としたケアラズカフェ（ホットとひといきカフェ）を開催をした。チラシを作成し自治会や民生委員、ケアマネジャー等に案内した。介護者同士の交流の機会に繋がった為、次年度も開催を予定している。
	花見川	計画	目標：「誰も孤立しない」を目的に地域住民や地域団体、機関、サービス事業所等と見守りの効いた地域づくりを進める。 ポイント：地域ケア会議を通じて課題の洗い出しと共有を進め、生活支援コーディネーターや他機関と共同して地域活動の充実を図っていく。
		実績	地域ケア会議等を通じて、地域住民や支援者と「高齢者の見守り支援体制について」検討を重ねることで、地域住民・関係機関などの支援に関わってくれる体制が整いつつある。また、認知症普及啓発では、複数の事業所と協働で、認知症カフェを立ち上げることができた。
	さつきが丘	計画	当事業所においては、年1回事業所内にて消費者被害勉強会を行っている。高齢者を狙った詐欺被害が増え続ける中、勉強会を中心に得た知識や技術を活かし、未然に詐欺被害を防ぐ。また、地域の高齢者に対する詐欺被害の周知徹底を図るため、チラシの配布や出張講座を開催する。
		実績	圏域内の諸団体への勉強会について働きかけたものの、今年度は開催に至らなかったが、通いの場や交流の場に訪問し、参加している地域の高齢者へ、消費者被害に関するチラシの配布や講話の時間を設ける等、権利擁護と詐欺被害防止について積極的に実施した。
	にれの木台	計画	あんしんケアセンターの周知活動を継続して行う。複合的な相談は、所内3職種で情報共有し、高齢障害支援課や医療、介護、福祉などの関係機関と連携し、問題解決に向け対応する。地域の高齢者が、自ら考え、行動できるセルフマネジメントの重要性を理解できるように相談時やラジオ体操、健康教室などを通して伝えていく。
		実績	あんしんケアセンターの周知活動を継続して行った。地域の高齢者にセルフマネジメントの重要性を伝えるため、いきいき健康手帳の配布とラジオ体操や健康教室の開催を継続した。自立促進ケア会議を通して坂道や階段のある町で暮らし続けるための課題を抽出し解決方法を検討した。
	花園	計画	あんしんケアセンター花園がより身近な相談窓口になれるよう周知活動に力を入れたい。地域の活動に積極的に参加し、介護予防や消費者被害等の啓発活動も行いつつ、あんしんの周知も行っていく。また、総合相談に関しては、迅速な対応を心掛け、包括3職種の専門性を生かした的確な支援ができるようスタッフの質の向上も目指していく。
		実績	令和7年度は地域の集まりや敬老会、民児協などの参加と共に、イベントの開催や近隣の店舗へアプローチ等、あんしんケアセンター花園の周知活動を積極的に行なった。併せて、広報誌「花園だより」や、各集まりの中で、消費者被害防止の啓発も行った。総合相談に関しては、迅速に対応した。
	幕張	計画	事態が極度に困窮していたり、複合的課題を抱える相談者は多く、支援体制構築のために他の相談支援機関や専門職者との共同と連携が必須。属性を問わず多世代に当センターの機能を周知し、地域住民に高齢者の生活相談窓口の存在を理解していただくことで、早期相談と早期対応のにつなげる。
		実績	「集いの場づくり」とあんしんケアセンター周知活動を、検討と実践を繰り返しながら4年間取り組んできた「たんぽぽ広場」では、初の圏域独自の区民祭りを民生委員児童委員と共に開催することが出来た。また地域の集まりやまちかど相談を通じてセンターの周知と早期相談につながっている。
稲毛区	山王	計画	「効果的な運営」を図っていく。昨年度より年3回開催している圏域内の事業所や民生委員との会議や研修を今年度も継続し、更なる地域課題の把握や地域福祉の増進を目指す。地域活動においてICTの活用を図ってきたが、対面での開催を希望する声が大きい。圏域内2カ所での介護予防イベントの定期開催を目指し、人員や設備についての検討を行う。
		実績	圏域を対象とした会議と研修会を開催した。会議ではケアマネジャーに対する地域資源の情報共有を図り、研修会では民生委員や介護保険事業所に対して虐待をテーマとして開催し、圏域における地域包括ケアシステムの構築を図った。地域活動を行う中で住民の声や意見等を集め、次年度以降の活動について検討を行った。
	園生	計画	高齢者を取り巻く環境が多様多様化し、相談内容も近隣トラブルやペット問題等、高齢分野の知識や公的な制度だけでは対応できないことも増えている中、どのような相談に対しても第一窓口として傾聴し、解決に向けて支援するセンターを目指す。 公的な支援制度だけでなく、地域のカやインフォーマルサービスをフル活用した支援を積極的に実施する。
		実績	センター全体で、どのような相談に対しても「まずは聞く」ということを心掛けることができた。 高齢者に関する相談以外にも第一窓口して相談を聞き、適切な機関へつなげるなどし、地域住民が安心して相談できるよう対応した。 生活支援コーディネーターとともにインフォーマルサービスの発掘、立ち上げなどに尽力した。
	天台	計画	高齢者を取り巻く社会情勢の変化もあり、高齢者の問題を高齢者の支援機関だけで支援していく事が難しくなっている。複雑化した問題を解決する為に、高齢者支援機関のみならず、様々な支援機関と連携を取ることが出来るよう関係性の強化を図る。また、民間企業や学校なども含め、地域に住む人だけでなく地域に通う人も取り込みながら連携強化を図っていく。
		実績	年4回の地域ケア会議を通じて各地域ごとにテーマを決め開催、「居場所作り」「防災」「動物飼育」「MCI」をテーマにそれぞれ関係する専門機関や民間企業等を含めて話し合いを行い、連携体制を作る事が出来た。次年度も引き続き関係強化を図っていく。

	センター名		
稲毛区	小仲台	計画	2025年を迎え、今後も事業対象者の増加が予測される中、個々の住民が自立した生活を目指して、自ら具体的な課題を見出し、セルフマネジメントができるように支援すると共に、地域の医療、介護、民生委員などの支援者と連携し、圏域全体で自助、互助への意識を広めていく。
		実績	想定通り要支援認定者、事業対象者の増加に伴い、総合事業、介護予防サービス利用の待機者が発生している状況で、圏域にある通いの場などインフォーマルサービスの利用を生活支援コーディネーターと共にマッチング、その後のモニタリングを行うことが出来た。
	稲毛	計画	地域活動が再開及び新たな場所での開催ができるよう各機関との連携を強化すると共に、多くの方に介護予防の必要性を実感してもらい、住民同士の繋がりを持ってもらえるよう普及啓発活動に取り組む。また多世代交流が持てるよう地域のイベントに企画から参加することで、地域資源の情報を把握すると共に、地域の中で活用される支援を進める。
		実績	民生委員や自治会の協力のもと新たな拠点で住民同士が集える場を新規開催に繋げた。参加者も多く交流の場が必要であることが理解でき、今後も継続できるようにしていくことが必要である。また一人ひとりの活動の場を広げられるよう、他の通いの場へつなげることや地域イベントの役割を担い、世代交流が図れるように取り組みを行った。
若葉区	みつわ台	計画	住み慣れた地域で安心して生活ができる地域づくりを行う。 【具体策】①地域課題に向けて自治会や民生委員、企業等と連携し地域ケア会議を開催する。②民生委員や支えあいの会の定例会等に参加し、介護予防や権利擁護等の周知活動を行う。③ボランティアと連携を図り、認知症カフェや本人ミーティングの開催を実施する。
		実績	①高品ハイツ、みつわ台、愛生町にて地域ケア会議を開催し地域課題の共有を図り、検討をする事ができた。 ②民生委員や支えあいの会の各定例会に参加し、普及啓発・活動支援に努めた。民生委員からの相談も増えている。 ③認知症カフェや本人ミーティングでは、認知症サポーターステップアップ修了者が活躍してもらえるようにサポートをした。
	都賀	計画	住民一人ひとりが自主的に介護予防の意識を持ち、高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるように、包括3職種と生活支援コーディネーターが日常的に地域特性や住民ニーズ、活動状況等の情報を共有し、介護予防・認知症関連講座や地域活動の支援を行い、インフォーマルサービスの定着と地域住民や関係団体支援者、行政とのネットワーク構築を図る。
		実績	第2層生活支援コーディネーターと連携し「地域の通いの場マップ」を作成し、地域住民や関係機関に対して地域活動の情報提供を行う体制の充実を図った。また、センター初のイベントを関係機関やサービス事業所等の協力を得て開催し、「人生会議～こころづもり～」の動画上映、地域の通いの場の紹介、要介護者による音楽発表等、地域住民の理解促進と交流の機会づくりに取組み、地域と支援者の連携強化につながった。若葉区高齢障害支援課をはじめ他機関等の協力を得て支援を必要とする地域住民への適切な対応に取り組むことができた。
	桜木	計画	総合相談については、迅速で丁寧な対応を実践する。また、内容によっては複数体制で支援することが必要と考える。さらに関係機関との報告・連絡・相談を密に、結果を急がず、本人、家族の意向を尊重した支援を展開していく。
		実績	相談に対して、本人、家族、その他の相談者の意向を尊重し、迅速で丁寧な対応ができた。また、内容により、複数体制で支援することで、関係機関との連携を更に密に図ることができ、解決に向けて円滑に進めることができた。
	千城台	計画	高齢者が健康で住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、多様化する支援ニーズに対して包括3職種が連携し、課題解決に向けて適切な支援を行う。また、増加している介護保険の相談に対しては必要な支援を行うとともに、介護を必要としない状態を維持する健康寿命増進に向けて介護予防普及啓発に注力する。
		実績	総合相談は令和8年1月末現在1,026件で前年同期比で24件増した。個々の相談ケースは内容により包括3職種が連携しながら支援を行い、必要な機関や課題解決に結び付けることができた。介護保険の相談は前年同様の総合相談が全体の約6割だが、介護を必要としない状態を少しでも長く維持するために体操教室の定員拡大や体力測定会を行い、介護予防普及啓発を行った。
	大宮台	計画	若葉区の面積の約半分を占める圏域だが、地域に偏ることなく、認知症や介護保険の講座を行う。センターから遠い地域の方々にも身近に感じていただけるよう、社協地区部会・自治会の役員と対話を重ねながら出張相談や出張説明会を開催する。増え続ける総合相談に、3職種が協力して対応する。
		実績	社協地区部会と対話を重ねながら、泉市民センターで月1回の出張相談を実施した。年3回、チラシを作成し、自治会に回覧を依頼した。相談者は平均1.5名であった。もっと住民に気軽に利用してもらうため、令和8年1月に地区部会と地域ケア会議を行い、周知活動の方法や地域との連携の仕方等の課題が抽出された。
緑区	鎌取	計画	・積極的なアウトリーチにより個々の高齢者が抱える潜在的ニーズの発見に努める。 ・高齢者の抱える複合的な課題については他職種連携や他職種協働により早期解決に努める。 ・地域ケア会議の開催を通じ、地域課題の把握や政策提言を行う。
		実績	高齢者虐待を始め、セルフネグレクトやゴミ屋敷のように、潜在的ニーズを抱えた事例に対しては、積極的なアウトリーチが奏功し、問題が複雑化する前に介入・支援に繋がられた。複合的な課題に対しても、行政や相談センター等と連携を図りつつ、必要に応じ、地域ケア会議を実施できた。
	誉田	計画	・気軽に相談ができ、早期に支援を始められるようにするため出張相談会を充実させる。 ・介護予防や健康に関する情報を伝え、地域住民のセルフケアマネジメントへの意識を高める。 ・複雑な課題が増えているので、3職種だけでなく、関係機関と連携しチームで支援を行う。
		実績	・出張相談会を年度内6回開催し、地域の身近な相談場所として周知をすることが出来た。 ・地域住民を対象に、健康測定会（9カ所）や講演会（11回）を開催し、健康や介護予防への意識を高めることに繋がった。 ・複雑な課題に対し、地域ケア会議など（5回）行い、関係機関と連携し対応をした。
	土気	計画	高齢者やその家族が抱える複雑多様化する生活課題に対して多職種、関係機関と協働し、高齢者だけでなく世帯全体を包括的に支援する体制づくりに取り組む。また、個別事例の相談対応の積み重ねから地域課題の抽出を行い、地域ケア会議を通して地域課題解決に向け取り組む。
		実績	高齢者だけでなく精神疾患や障害がある子供世代やその孫世代が抱える生活課題に対しても多職種、関係機関と協働し、地域ケア会議を行い支援方針を検討するなど世帯全体を包括的に支援する体制づくりに取り組んだ。また、個別事例の積み重ねから地域課題の抽出を行い、地域の関係機関と地域ケア会議で共有した。
美浜区	真砂	計画	①高齢者自身のセルフマネジメント：真砂1丁目～5丁目の各地域に歩いて行ける集いの場を増やす。 ②認知症施策の推進：認知症高齢者への声掛け訓練、どこシル伝言板の体験会を通じた普及啓発を行う。 ③ケアマネジャーの資質向上：i「センター独自の手順書」による予防プランの作成指導、助言及びii「高齢者虐待対応研修会」を実施する。 ④高齢者虐待対応の評価：ケアマネジャーへ匿名でアンケートを実施する。
		実績	①：新聞エコバッグ作り、はなまるカレンダー作成・配布、真砂1丁目体操会立ち上げに取り組んだ。 ②：真砂コミュニティセンターふれあいまつりで「どこシル伝言板」の周知活動を行い、多世代の100名の方へ情報提供を行えた。 ③：圏域で「高齢者虐待対応研修会」、美浜区で「BCP、おひとり様支援」をテーマに研修を開催した。美浜区の居宅主任ケアマネのネットワーク会議の自立運営を達成した。 ④：12月にアンケートを実施、結果を分析し相談環境及びケアマネジャー向け相談手引きの作成を次年度計画した。
	磯辺	計画	・介護予防手帳を活用し、体力測定やチェックリストをする。高齢者自身が自分の状況を確認できるようにする。 ・運動だけでなく、様々な社会活動の場を支援し、住民がいろいろな機会を選択できるように活動の場を支援する。
		実績	・体力測定の場では介護予防手帳に記録をしながら、体力の変化など話を聞いたり、モチベーションが維持できるように支援した。 ・運動の場を新たに立ち上げた。共食の場や、ゲームなど運動以外で楽しめるものを住民と一緒に企画しながら行った。
	高洲	計画	①独居、高齢者世帯、移住者が多い地域のため、積極的に訪問し、相談者の多様な背景やニーズを理解し、丁寧な傾聴と迅速な対応に努める。 ②住民の出入りが多い建物内での業務のため、介護予防普及啓発活動に努めていくと同時に、急な来所相談に備えた柔軟な対応を目指す。
		実績	①緊急性を配慮し、住民の希望に沿った相談対応を行うことができた。 ②来所相談件数は月平均60件近く、住民にあんしんケアセンターの存在が理解され、啓発の成果がみられている。急な来所相談も多く、それに対しては職員の業務調整で対応しているが、すぐに対応できない場合は別の方法で柔軟に対応した。
	幸町	計画	①個別課題や地域課題の解決のため、多種多様な専門職や関係機関と連携し課題解決に取り組む。 ②地域づくりのために住民や関係機関と日頃から連携を図る。 ③関係機関と協同しながらイベントを開催し、多世代交流や地域活動を促進する。
		実績	① 個別課題や地域課題の解決に向けて、多様な専門職や関係機関と連携しながら取り組むことができた。 ② 地域づくりを推進するため、住民や関係機関と日頃から連携を図った。 ③ 関係機関と協働してイベントを開催し、多世代交流や地域活動の促進につながった。